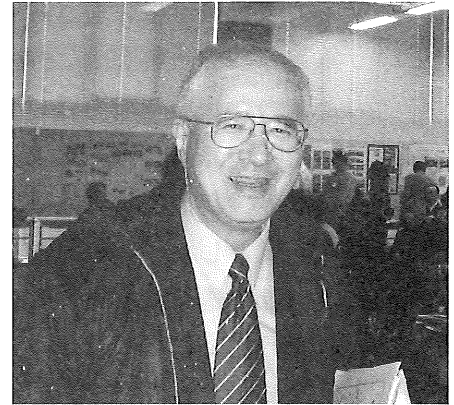


渡辺研はテイクオフします

教授 渡辺 俊一

考えてみれば「大河原研→石原研→渡辺研」と続いた、理科大の都市計画研究室には、この4月から若い後任の先生をお迎えして、さらに発展してゆくことと思います。いまわが渡辺研も先輩2研究室に続いて、理科大空港をテイクオフしようとしています。大空での今後の軌跡について、いま考えていることは、渡辺研の同窓会は（生涯学習センターとして）従来どおり継続しつつ、インターネット上で「NPO法人 渡辺都市計画ラボ（仮称）」というバーチャルな研究室をつくることです。都市計画の研究は永遠ですから。



渡辺先生 おつかれさまでした！

S54年 大河原研卒 周藤 正信

渡辺先生にはこのOB会（野田建築会）設立にあたって多大なお力添えを賜り、誠にありがとうございました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。



東葛まちづくり交流会 最終講義 2005.3.12

また、先生は1998年より「東葛まちづくり交流会」という建築士による地域貢献まちづくり研究会を主催され、私も二度ほど参加させて頂きましたが、所謂建築が前提のまちづくりではない、という点がおもしろく、市民活動すべてがまちづくりにつながるということを教わりました。

先生の活動は30年前の私たちの授業と比べると、時代の流れをつくづく感じます。多分時代の匂いを感じ取る感性をお持ちなのでしょう。学問が地域へ流れ、地域は大学を核として横のつながりや手法等を吸収し、学生は地域活動の実践を肌で感じ取り、最後にそれを学問としてまとめる。地域力の地産地消を実践されました。

究極のまちづくりは「教育」と考えておりますが、これから「渡辺都市計画ラボ」に向かってテイクオフする先生には、ネット上だけでなく、こどもの頃からの「まちづくり」実践教育を、東葛市民と共に作って頂きたいと思います。

大学におかれましては、渡辺先生の東京大学で33年後輩にあたる後任の先生（また、いつか「研究室紹介」でご紹介できるでしょう）に、都市計画研究室の歴史をご理解いただき、渡辺研ともども古い世代（大河原研・石原研）もよろしくお願い致します。



後任の先生を紹介

研究室紹介 ー井口商店ー

教授 井口 道夫

卒業生の皆さんこんにちは。お変わりありませんか。

縁あって東京理科大学に勤務するようになってから、今年で34年を迎えようとしています。私に残された大学での研究生活は、もう片手で数えて余るほどになりました。建築学科の最古参あるいは最長老という嬉しくない敬称(?)で呼ばれるのももうすぐですが、そのような呼びかけを撥ね退けるだけの気力と体力と活力を持ち続けたいと思う昨今です。

井口研OB/OGの方はご承知のことですが、かなり以前から当研究室を井口商店と呼んでいます。このようにしたのは、そこからは他に求めることができない研究成果としての商品を生み出し、それを世に発信する場としたいという強い思いからです。

当商店から世に送り出すものには、有為な若い人材も含まれていることはいうまでもありません。当商店が心掛けているのは、オリジナリティを大切に、後追いでない、国際的にも通用する新鮮な商品を世に送り出すことです。

ありがたいことに、井口商店のブランドを付けて世に送り出したものは評判がよく、多くの人に重用され役に立っているのを耳目し、“我が意を得たり”の思いです。それにも増して嬉しいのは卒業生諸君がそれぞれの場で活躍し、その様子が耳に入ってくることです。

ここ数年は研究と教育の本業に加え、大学運営の役も同時に務め、2本の足に3足の草鞋を履いているような状況にありました。今もその状況に変わりはありませんが、残された理科大での時間を大切に、井口商店での新たな商品開発に励みたいと思っています。

皆さんのご活躍とご健勝を念じています。



(井口商店のグループ写真：2004/11)

井口道雄先生略歴

- 1940年 東京に生まれる
- 1964年 早稲田大学工学部建築学科卒業
- 1966年 早稲田大学大学院修士課程修了
同 博士課程入学
- 1971年 東京理科大学工学部専任講師
- 1974年 同 助教授
- 1985年 同 教授
- 1978年 Univ. of California, San Diego
客員研究員
- 1974年 工学博士

著書 建築物の構造解析シリーズⅡ「骨組構造の解析」(共著)(技報堂,1976),「建築構造

力学の最近の発展-応力解析の考え方-」(分担執筆)(日本建築学会,1987),「入門・建物と地盤との動的相互作用」(分担執筆)(日本建築学会,1996)ほか。

野田キャンパスが再構築されつつあります！

事業部会 高安 重一（H1年卒）

この春に野田キャンパスには3つの新しい建築がオープンします。キャンパスの全体像や新しい施設のパスなどは下記のHPをご覧くださいのですが、

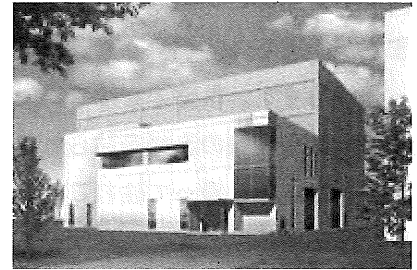
http://www.tus.ac.jp/125/reconstruction_noda.html

理科大の「創立125周年記念事業」の一環で野田キャンパスの再構築を行っており、全てOBによる設計、施工となっています。

一つ目は、

「21世紀COE火災科学研究センター」日本最大規模の火災実験棟で、40m×25mの平面に18mの天井高をもつ大空間で火災実験を行うことができます。日本の防災研究の核をなす施設と期待されています。

基本設計は若松先生の後任として昨年着任された大宮喜文先生（平2卒・若松研）を中心にまとめられました。設計施工は東急建設で工学部の卒業生の堀上陽子さん（平7卒・工学部鈴木研）が担当されました。

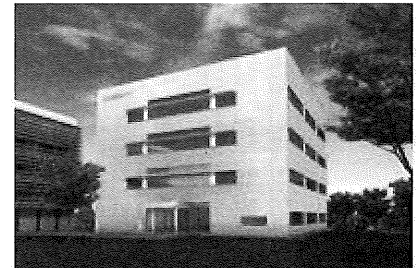


21世紀COE火災科学研究センター(イメージ図)

二つ目は

「DDS研究センター」薬学部の施設で、「ドラッグ・デリバリー・システム」という、薬を体の患部に的確に届けて効かせる研究を行う施設です。これも最先端の研究と言うことで、数年後にここから生まれる成果が待たれています。

こちらは、大林組の設計施工で 御船杏里（平2卒・堀川研）さんが設計を担当されました。こちらも女性建築家による、コンクリート打ち放しの建築です。



DDS研究センター(イメージ図)

三つ目は

「コミュニケーション棟」と呼ばれる、学生の福利厚生施設です。食堂・売店・多目的ホール・和室・防音室・理髪店からなる、複合用途の建築です。平屋の1300㎡の平屋で、これもコンクリート打ち放しです。学生のコミュニケーションを促すのが目的とされ、平面的には矩形の構成ですが、中庭を3つ挿入することで、それぞれのスペースの関係をつかず離れずと行った状態にしています。



コミュニケーション棟(イメージ図)

こちらは設計施工分離で、設計はOBの設計事務所連合体として、高橋堅さん（平5卒・初見研）、佐久間達也さん（平5卒・奥田研）と高安重一（平1卒・奥田研）が担当しました。施工は飛鳥建設で所長の齊藤（旧姓：高信）博文さんは昭61卒の齊藤研究室のご出身です。こちらは食堂などもありますので、どなたでもご利用頂けます。ぜひ野田にいらした時には立ち寄って頂ければと思います。

新潟県中越地震を体験して

S53 年卒 小川 峰夫

地震発生(2004.10.23)から5ヶ月が経過し、余震の頻度も少なくなり、地域はやっと落ち着きを取り戻し始めました。この度の寄稿は地震後12日目に心配して下さった友人知人に宛てたメールを紹介し、被災者の体験談とします。

『地震後12日にして、ようやくパソコンが回復し、やっとメールを打つことができました。インターネットにつなぐと、皆様の暖かいメール、大変ありがたく思っております。11/4夜にようやく避難勧告が解除された状態で、まだ事務所も家も片付かない状態です。

長岡でも東山のこの地域は被害が大きいようで、写真をご覧になるとわかると思いますが、道路は隆起や陥没。電信柱は斜めに倒れ、塀も倒れ、擁壁は崩れるといった状態です。私達の家は幸いにして無事でしたが、付近の家のほとんどが要注意の黄紙や危険の赤紙を貼られています。またひどいところは半壊状態だったり、家が敷地ごと滑って住むことができない状態だったり、本当にひどい有様です。地震直後は道がそんな状態だったので車が使えず、私と左半身が不自由な父と、愛犬との孤立状態という感じでした。(妻と娘は旅行中でした。)

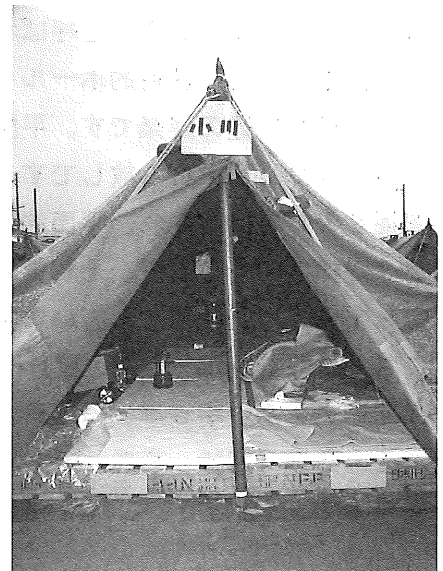
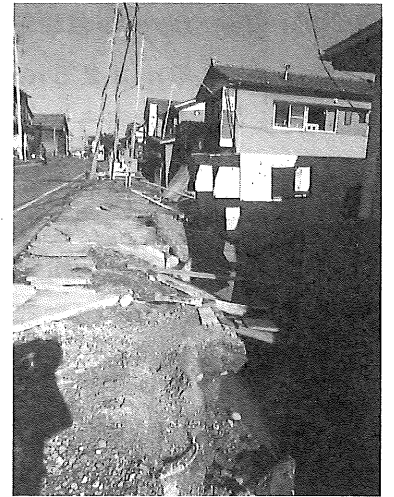


建物は大丈夫でしたが、家の中はメチャクチャです。食器棚からは皿が飛び、事務所は本棚が倒れ本の山。パソコンやプロッターは床に落ち、全ての部屋がこんな状態でこれが収まるまでどの位かかるのだろう、、、と途方に暮れましたが、とりあえず事務所復旧の目処がつかしました。

度々の余震も参ってしまいます。眠れぬ夜が続き、心配なので父は神奈川の姉のところに避難しました。27日の大きな余震の後、近くの長岡高専の敷地が地滑りの恐れがあると避難勧告が出、中学校に避難しました。

http://www.geocities.jp/team_kz/index.html (長岡高専被害の状況掲載のHPです) 大型犬は避難所には入れないので、結局、グラウンドで車中泊

でした。その後、自衛隊のテントが設営されたのですが、テントに移った時は嬉しかったですね。自衛隊のテントにはストーブまでついているのですよ。昼は家の片付け、夜はテントの生活は結構しんどかったです。散らかっていても我が家が一番。昨日は久しぶりにぐっすり眠れました。これから当分避難所生活をしていかなければならない方々を思うと胸が痛みます。ライフラインは、最初は水道、ガスが途絶え、続いて電気



でした。長岡はほとんどの地域は復旧したそうですが、こちらはガスがまだです。もう少しの辛抱かなと思っています。(11/11に復旧)大分減ってはきましたが、今でも余震にはどっきりとします。けれど確実に良い方向に向かっていると感じられます。復旧に向け、みんな元気で頑張っていますので、ご安心ください。』

現在は様々な復興イベントの開催に関わり、中越地震・大地復興推進会議の委員として、そして建築家として、少しでも地域の役に立てればと活動しています。地震の影響が経済的にボディブローのようにきいてくるのはこれからです。皆様にも暖かく見守っていただきたいと思います。

「OBと語る会」が開催されました！

事業部会 高安 重一 (H1年卒)

2004年12月3日。年に一回、恒例となりました「OBと語る会」が開かれました。今年は2号館4階、旧241教室を改装したマルチルームで行いました。

マルチルームとは、できたてのホヤホヤで、まだ新しいイスも入っていませんでしたが、ご報告しますと、旧241教室の廊下との境壁をなくし、学生のミーティングや展示などが可能な、誰でも自由によれるコミュニケーションのためのスペースと言った趣です。

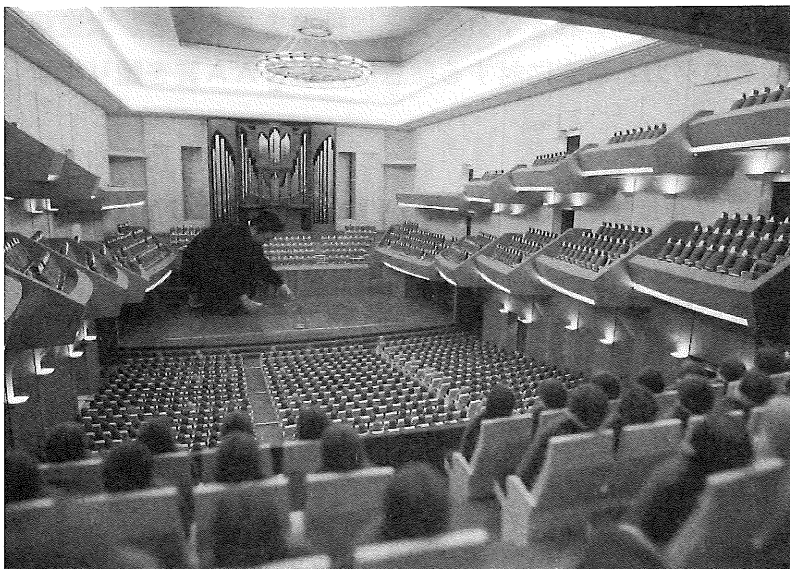
この新しい場所で80人位の学生が集まり、初見先生、衣笠先生、川向先生なども立ち寄って頂きました。

そして今年の講師は、

佐藤史明氏(千葉工業大学 助教授・音響工学・昭62年齊藤研卒)

戸川憲一氏+荒内要氏(設計事務所bari主宰・平10年小嶋研卒)

の二組にお願いしました。



始めに、佐藤氏。齊藤研究室から東京大学の大学院に進まれて、現在は千葉工業大学で教鞭を執られ、コンサートホールの音響測定やコンサートホール音場の再現に関する研究などを行われています。レクチャーではピアノの音楽家である奥様のお話や、佐藤さんの同級生である遠藤政樹さんの設計された、開放的であって音の漏れない住宅などもご紹介頂きました。そして本職の話。ある空間に音を発生させたあと、どのように音が広がっていくか？見えない音を波のように可視化し、いい音の空間や悪い

音の空間の違いを目で見てわかる形で表現して頂き、さらに実際の音も併せて聞かせて頂きました。これにはさすがに歓声があがりました(OBと語る会始まって以来始めて!)。音が伝わる様子は実はとても綺麗だったのです。

次に、設計事務所bariの2人(戸川氏、荒内氏)のレクチャーですが、2人は平成10年に小嶋研を卒業、12年に大学院を修了しています。どこに勤めるわけでもなく、事務所を始めて数はまだ少



ないですが、その設計のプロセスに特徴がある事務所です。デビュー作の富士薬局はガラスの反射を利用した領域の作り方を動画でプレゼンテーションして頂きました。また、計画案ですが、ペンシルビルの集合住宅の設計で、自然光で100ルクスの明かりを採れることを平面・断面計画のよりどころにしているという話を聞きました。見たことのない独特の形は感覚で決められるのではなく、2人が納得できるパラメーターを設定して形の決定要因にしているという話でした。

今年は小嶋研究室の助手の佐貫さんのポスター制作、授業でのアナウンスの効果で1年生が多く参加されました。当初は就職のためのOBの仕事紹介的な始まりでしたが、ここのところ、OBとの交流、野田建築会のアピールという役割が強くなっていると感じています。学生との活動の一体化はますます重要になってきていると思いますので、今年の人選などに希望や推薦などありましたら、メールグループにでも連絡いただければと思います。

NAA賞 決定!

受賞者：胡 震洪（コ シンコウ）君
武田研究室 大学院2年生（本年3月修了）

受賞理由：胡震洪君は中国（上海）からの留学生であり、本学大学院の修士課程に入学しました。慣れない環境と言語の壁を乗り越えて、本年2月に優秀な修士論文を提出し、また、修論発表会では立派に日本語による質疑応答をこなしました。さらに、これを学会論文集に投稿をするなど、大変精力的な研究活動を展開しております。胡震洪君の努力と研究に対する熱意に対しNAA賞を贈ります。

平成17年度 会費納入のお願い

現在、東京理科大学野田建築会会則に則り、平成17年度普通会員の年会費（平成17年4月1日から平成18年3月31日）¥3,000円を徴収しております。

当会の発展と活動の進展を期すために、本年度会費を是非とも納入いただくようお願いいたします。

つきましては、会費納入のための郵便振替用紙を同封致します。こちらの手違い等ですでに納入されておられる方に同封された時は、御容赦下さいますようお願いいたします。

なお振込みの際、封筒の宛名ラベルに記載されているID番号の通信欄への記入をお願い致します。

銀行口座からの振込み先

振込先：みずほ銀行（みずほ普通預金）

店番号：731（清瀬支店） 口座番号：8040529

名義名称：東京理科大学野田建築会 会長 菊地 利武

なお銀行振込みの場合は、送金者氏名を記入する際、名前の前にID番号をご記入下さい。

例えば、ID番号：0055、名前：野田太郎の場合は、「0055野田太郎」とご記入ください。

平成17年3月20日

東京理科大学野田建築会会長 菊地 利武



発行 東京理科大学野田建築会 〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~sut-naa/index.html>

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会